



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	大学入試の現状とその教育に与えるインパクトに関する一考察
Author(s)	藤田, 正一
Citation	高等教育ジャーナル, 2, 171-179
Issue Date	1997
DOI	https://doi.org/10.14943/J.HighEdu.2.171
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/29856
Type	departmental bulletin paper
File Information	2_P171-179.pdf



大学入試の現状と その教育に与えるインパクトに関する一考察

藤田 正一

北海道大学大学院獣医学研究科

Current Problems of Japan's College Entrance Examination and Their Impact on Secondary Education

Shoichi Fujita

Department of Environmental Veterinary Sciences,
the Graduate School of Veterinary Medicine,
Hokkaido University

Abstract — In most Japanese universities, the sole criterion for the evaluation of incoming students is their scholastic achievement evaluated by an entrance examination, which mainly tests their accumulation of knowledge. Students' humanity is not evaluated at all, and henceforth, no character reference is even required for application. Their school records from high schools are ignored because there are marked differences in students' academic achievements between high schools, and fair comparison of the records is practically impossible. This method of evaluation and the intense competition for entrance to nationally renowned universities have a profound impact on the elementary and the secondary education in Japan. Students get so competitive that some students slip away from the classroom chores, do not participate in any school activities but the lectures, and are not required to do any household chores by their parents to ensure their study time. There is practically no time to spend for the development of their humanity. Another problem is that the education is distorted towards memorizing knowledge rather than understanding and synthesizing knowledge and creating new ideas. Students full of memorized knowledge with poor synthetic or creative minds can successfully win the race. The professors of the School of Veterinary Medicine of Hokkaido University were asked which criteria of the students' ability should be evaluated at the entrance examination. Eagerness and creativity ranked the highest and the accumulation of knowledge ranked very low. They were also asked which criteria can be tested in the current entrance examination. The accumulation of knowledge ranked highest. They agreed that the current examination system can not evaluate the abilities they want to know most about. Some alternate evaluation systems are discussed.

1. 大学入試の現状

1.1 背景

教育改革が国家の重要な政策の一つの柱として叫ばれている。この改革の内容は明かではない

が、オウム事件で、高度の教育を受けた人間がその知識を反社会的行為に活用してしまった事例などに端を発して、教育の質と、その教育を受けたものの社会性を問われていることは間違いない。大学では現在、小、中、高の学校教育の成果とし

ての“製品”を受け入れ、教育しているわけであるが、大学教官の間からは彼らに対して「休んでいる友達の様子も見に行ってもやらない。」「打たれ強さがなく、失敗に挫けやすい。」「生意気だ。」「人間的に面白い奴がいない。」「感激がない。」「成績の良い学生ほど頭が悪い。」「などの批判を聞く。しかし、そのような教育意欲を失墜させるような人間こそ、我々大学側が注文して作らせた製品であることを忘れてはならない。現在主流を占める大学入学試験方式、即ち、知識評価偏重の試験で大学の入学者を選抜する方法が、どれほど小、中、高等学校の教育、生徒の生活習慣を歪めているかを、大学は大学の責任として、把握し、考慮する必要がある。塾通いで時間がない。遊ばない。人間的な陶冶の暇がない。家庭教育を施す時間がない。読書する時間がない。家事手伝いをする時間がない。社会奉仕する時間がない。そもそもそんなことする気も起らない。勉強さえ出来るようになればそれでいい。で、社会性のある人間や面白いのある人間が出来るはずがない。この元凶が大学入試という選抜方法にあることは間違いなからう。受験校に行ってみれば如何に我々の注文に沿うように、大学入試という我々の規格にあうように、汲々として彼らの製品を作り上げているかがよく分かる。

例1

「A君は正義感が強く、クラスをよく纏め、学校行事やクラス行事にも積極的に取り組んだ。友人の悩みごとにもよく聞いてやった。クラブ活動や生徒会活動にも積極的に参加し、授業の後には黒板を率先して拭く、そんな生徒だった。成績はB君ほどでは無いが優秀で、本人は医学部進学を希望していた。先生方もこんな人物こそ医者に相応しい、どんなにいい医者になるだろうと期待していた。B君は成績優秀だが、クラブ活動や生徒会活動には一切参加せず、学校行事やクラスの行事

もうまくすり抜けて勉強時間に当てた。友達の悩みごとを聞くような時間的、心理的余裕は勿論なかったし、友達も彼には相談しなかった。ただ先生に対しては悪印象を与えないように礼儀正しく振舞った。そんなB君は現役合格、A君は3浪して別の道に進んだ。」
- ある高校の父兄会の席で、全人教育の必要性を問うた質問に対して、教師がこれが現実だと語ってくれた話しである。「本当はA君のようであるべきなのだけれど、それではいい大学に行けません」と。

教育とは何だろう。親は子にどのような人間になって欲しいのだろう。進学校の教師は生徒にどういう人間になれと教えれば良いのだろう。

このように、人間として最も大切な教育（人間的陶冶をたすける教育）を犠牲にして培われた学力とはどのようなものなのか。

1.2 現行入学試験の問題点

(1) 学力

「札幌農学校第二年報」に「日本国教育の進否」と題する一文があり、「日本の古学は広大迂遠にして、あくまで記憶力を育養し、思想力はこれを軽忽せし...」と記憶力偏重で思想力（考察力）を育てようとしぬ教育を批判し、「思想者は他の模擬するは、はなはだ拙なりといえども、創造および活動力を具有する者なり。模擬者はもともとその規範に模倣せんことをのみ務る者なれば、その力はその規範に対当すべき単一完全のものにして、決してその規範に勝ることあたわざる者とする。もって、甲（思想者）は先導者たり、乙（模倣者）は追従者たるに過ぎざるなり。」としている。120年前のクラークの米人教え子達のこの指摘を我々は今、改めて厳粛に受け止めなければならない。我々が従来の記憶力を問う試験で選抜しているのは、この年報の言うところの模擬者に他

ならない。そして、創造および活動力を具有する「思想者は他の模擬するははなはだ拙な」ため、記憶力を試す試験では振り落とされてしまうことになるだろう。

我々は改めて問わなければならない。

□入学試験では記憶・知識を問う問題が主流であるが、これで本当に優秀な人材を選抜しているのか。

□そもそも優秀とは何か。暗記力の優秀性と、例えば、思考力や創造性の優秀性とは異なる尺度で計るべきではないか。今の入学試験で思考力や創造性の優秀性を評価出来ているか。

□学力には記憶力のほかに、思考の深さ、創造性、理解力、発表力・表現力、論理性、応用力、想像力、意欲、集中力、実験計画などの立案力、抽象概念の具現化能力、個別事象の普遍化能力など、様々な能力があるが、記憶力を試験することでこれら全てを到底評価出来ないことは言うまでもないだろう。記憶力の評価で、個人の学力の評価とすることは、学力の極めて偏った評価であるとは言えまいか。いったい学力のどの要素のうち、どの能力を我々は求めているのか。現行の記憶力重視の試験で我々は我々の求める学力を評価出来ているのか。（評価出来ていないとすれば、これを若者に強いることに何の意味があるのか。そして、このことが、本来のあるべき学校教育の姿をねじまげているとすれば大学入試の罪は大きい。）

（2）人格・人間性

他人をけ落としても、という人格の持主が選抜されるのは好ましくない。受験のため人間的陶冶、家事、友達付き合いの全てを犠牲にして、よい成績を得てきたような人間を我々は大学に受け入れたいとは思っていないはずである。しかし、現行の選抜方法では受験競争のため、このような人間を作り出してしまっていないか。本来なら

ば、努力の人でありながら、他人への思いやりのある人間が求められる。物事に対して意欲的・積極的であり、建設的思考の持主、明るい性格、逆境に強い性格が求められる。また、自身の人間性陶冶にも積極的でなければならない。即ち、クラブ活動や生徒会活動などへの積極的関わり、ボランティア参加などの経験を持つ人間が望まれるはずである。このような人間性の成長を促す教育を現行の大学入学者選抜方法は阻害してはいないだろうか。

（3）適性

当該学部志向する人物像たるに必要な適性を持つもの。例えば、獣医学であれば、上記のような人間性のほか、適切な判断力と決断力は診療にも必要。獣医学に対する興味。生物・動物が好き。環境問題に興味。汚い・きついを厭わないなどが必須の要件となる。しかし、現行の選抜方法ではこれらは評価出来ない。

以上のような問題点を踏まえて、私は獣医学部の講師以上の教官に付録1のようなアンケートを実施しました。

1.3 入学選抜方法改善についてのアンケート結果報告

（1）目的

大学入試制度の改革は、学校教育の全てにわたって強いインパクトを与えうる極めて重要で慎重な取扱が要求される事柄である。しかし、現状の入試制度は必ずしも高校以下の学校教育によい影響を与えているとは言い難い。むしろ悪影響の方が大きく出ている。このため、高校や大学が、それぞれの教育理念に基づいて、どのような人間を育てたいか、若者にどのような教育をしたいかを明確にし、その教育に悪影響を与えない入学者選抜方法を考案しなければならない。北海道大学にどのような人材を受け入れ、教育し、世に出したいか。入学者の選抜に当たって、我々はこのことを常に念頭におき、その目的に最も的確

に答えてくれるような選抜方法を検討し、実施して行かなければならない。果たして、現行の入学選抜方法がこの目的をどの程度果たしているであろうか。

入学選抜方法の改革案作製の前に、我々がどのような人材を求めているのか、そのような人材を選抜するためにはどのような評価項目について評価しなければならないかをまず知る必要がある。この結果により、必要とする評価項目が評価出来ていない現行の選抜方法の問題点とその要因を明らかにしてはじめて、その問題点を克服出来るような評価法の検討にはいることができる。今回は、獣医学部入学選抜に当って必要な評価項目のコンセンサスを得るため、および、現行のセンタ - 試験や大学独自の試験が学力のどの要素を最もよく評価可能か、その評価で、必要とする評価項目を評価出来ているのかを知るため、アンケートを実施した。

(2) 対象

獣医学研究科講師以上の教官 34 名

回収 24 名

(3) 集計方法

1) 必要とする評価項目の選択

10個選ばれた評価項目に対し、それぞれの順位に従って、1位には1、2位には0.9、3位には0.8、... 10位には0.1の重み付けをして集計した。即ち10段階評価法となっている。

2) センタ - 試験および大学独自の試験の評価

回答がそのまま5段階評価となっているので平均値を出してグラフ化した。

また、必要とする評価項目を明らかにするため、学力の評価項目のスコア（重み付け無し）をグラフ化し参考にした。

(4) 結果

入学選抜に当って、ぜひ知りたい生徒の学力・人間性の要素が Fig. 1から読み取れます。これから考察すると、獣医学部に入学してくるものとして期待される人間像は、意欲・探求心に富み、創造性豊で、行動力が有り、理解力に優れ、論理

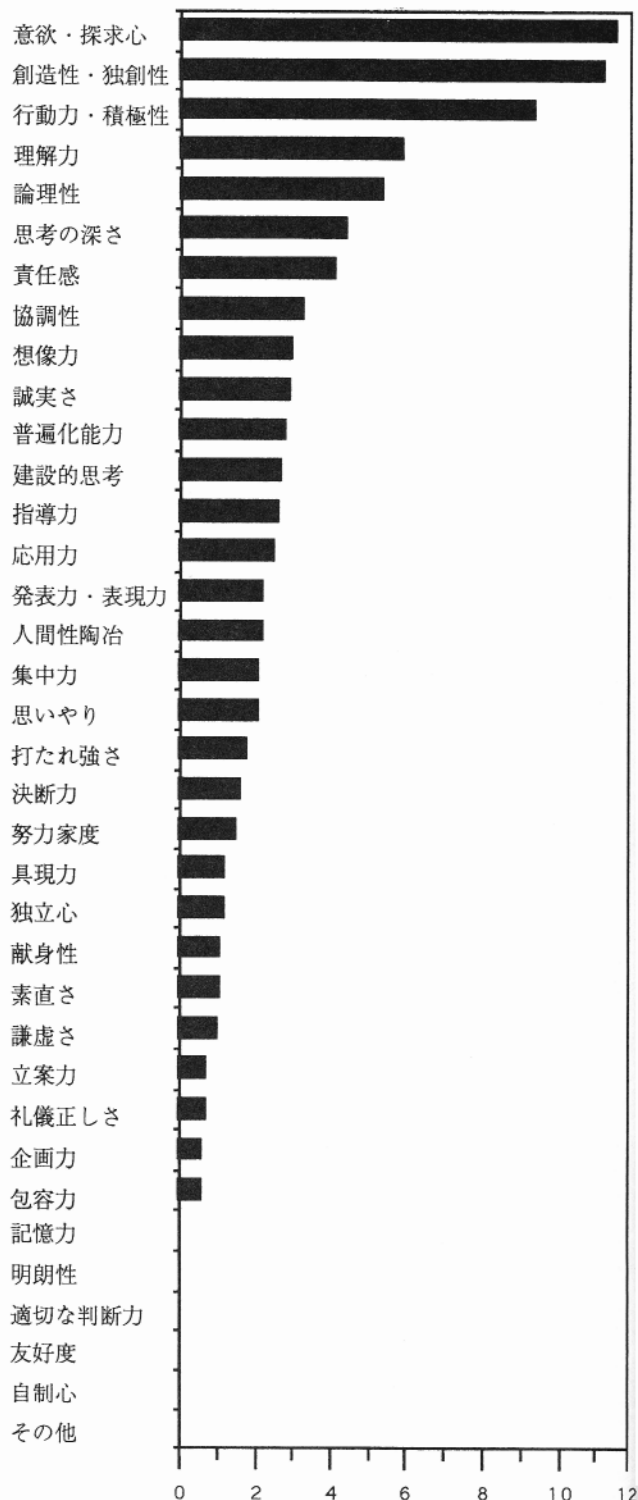


Fig. 1 入学選抜に際し、最も知りたい生徒の学力、人間性の素因

的に深く物を考えることが出来、責任感に溢れ、誠実で、協調性に富み、想像力の豊かな人物ということになります。意欲・探求心、創造性が最も必要とされる学力の要素であり、記憶力の良さなどの評価は必要とされていません。

ところが、つぎの、センタ - 試験や大学独自の試験で何がよく評価出来るかを検討した結果 (Fig. 2) によると、もっとも必要とされた意欲・探求心、創造性はほとんど評価出来ないと考えられ、最も必要ないとされた記憶力が最もよく評価可能であるとされています。意欲と創造性を知りたいのに、それらがほとんど評価出来ない入試方法で入学者を選抜していることになります。方法論、技術論を別とすると、最も必要とされないものの評価で入学者を選抜しているという非常に非合理的な現実気づきます。

因みに、現行のセンタ - 試験で学力の要素のうち、何がどの程度評価出来るかを問うたアンケートの結果では、四捨五入して3(どちらとも言えない)より高い評価を得たものは、記憶力、理解力の2項目のみでした。学力の要素のほとんどがセンタ - 試験で評価出来ないと考えられているということです。大学独自の試験でも結果はほぼ同じでした。

我々が求めているのは暗記力、模倣力の豊さではなく、意欲、探求心、創造力の豊かな者、従来の記憶力重視の知識を問う試験の達人よりも、将来、研究や実社会で底力を発揮出来るような人間

を求めている。このような人間をどのようにして選抜するかが問題であるが、従来の選抜方法に抜本的な改革が必要であることは言うまでもないでしょう。

2. 考察

以上の結果を含め、現行の大学入学者選抜方法の問題点とそれが小、中、高等学校および大学における教育に対する影響を考えると以下になる。

2.1 現行大学入試の問題点と、それが教育に与える影響

1. 学力の要素うち、評価したい能力が評価出来ない。

知識偏重の評価のため、必ずしも我々が望む創造性、意欲、解析能力の豊かな人間が選抜されていない。大学入学後の学習態度や研究遂行意欲(大学院進学希望なども含めて)にも影響する可能性がある。

2. 記憶力をもって学力の評価に変えているが、これが学校教育を歪めている。

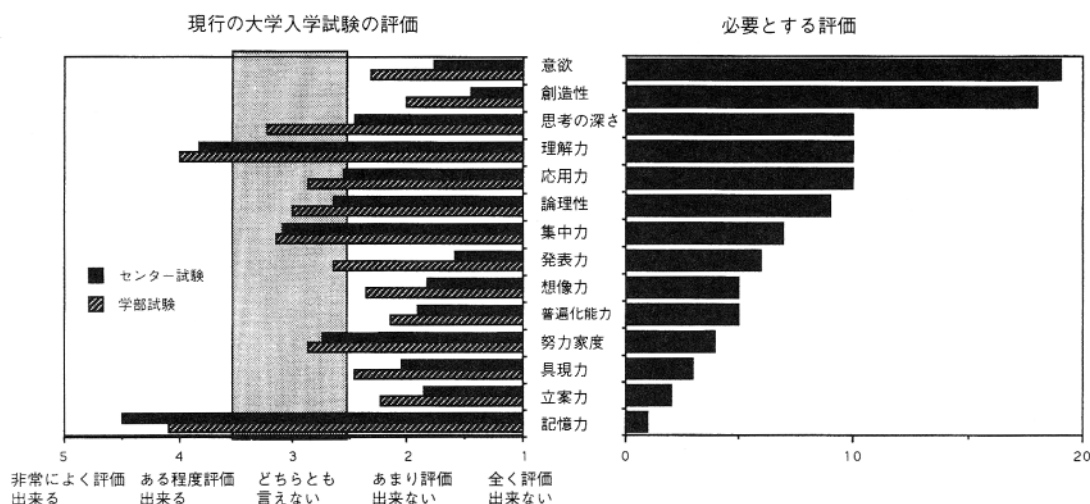


Fig. 2 現行の大学入試で学力の素因の何がどのくらい評価出来るか(左) どの素因の評価を最も知りたいか(右)

知識の教育のみで、知恵を育てる教育がなされない。意欲を培い創造性を高める教育を実施する時間がない。体育、徳育に当てる時間も少ない。

3. 人間性の評価がない。

本来、人間性の評価はなくてよいものであるかも知れない。しかし、これがないため、人間性の陶冶を軽んじ、知識の吸収のみに務めるようになってしまった。その結果、この年齢の青年が当然備えているべき人間性に欠陥が見られる人物が入学してくるようになった。

受験勉強という、本来の教育の本質からかけ離れた学習から解放されたとき、学校教育はどのように変わり得るかを表1に考察した。

2.2 大学入学者選抜方法の一改善策の提言

案1 高校推薦＋内申書＋センタ－試験＋面接の総合評価により選抜する。

- ・高校に学力とともに、本人の適性、人格、意欲（大学院進学の意味）クラブ活動、生徒会活動などへの関わり方等を評価の上、推薦してもらう。評価票は大学側が用意する（付録2）。
- ・センタ－試験を点数に加味することで学力を考慮するときの公平性を得る。（学校格差の是正を計る。）センタ－試験は知識の試験ではあるが、高校生としての最低限の知識を問うものと位置付け、点数に加味、あるいはこれに基づいて足きりを行う。
- ・面接により、高校側の推薦が適切な判断に基づく推薦か、入学させたいが為の政略的推薦かを吟味する。面接では人物像を中心に、意欲、発想の豊かさなどもチェックする。出来れば複数面接と個人面接を行い、ディベート能力、発表力、論理性等を評価するとともに、発表力はないが深い思考力のある人物の掘り起こしに務める。

メリット

表1 受験勉強という知識詰め込み型教育から解放されたとき、学校教育はどのように変わり得るか

知育：

- 1) 読書の励行により、ものの考え方、人の心の動き、思想の形成などをより深く学習することが出来る。
- 2) 社会的事象などの調査研究のプロジェクト学習などを行う余裕が出来、実体験としての学習が可能となる。
- 3) 理科実験や、科学研究プロジェクトを組むことが出来る。
- 4) 英会話など実践的語学の学習の余裕が出来る。
- 5) 如何に問題を解決するかという思考力の訓練が重視されるようになる。
- 6) 覚えることよりも、ものの考え方が重視され、学習の面白さが実感出来るようになる。

徳育：

一言で言えば、人間的陶冶に費やす時間的、精神的余裕が出来るということであるが、具体的に言い換えると、

- 1) いじめや校内暴力について、生徒たちが考え、討論する時間が出来る。
- 2) クラブ活動や生徒会活動などを行う心理的余裕が出来る。
- 3) 競争本位の人間関係が改善される。
- 4) ボランティア活動などに参加する余裕が出来る。
- 5) 家庭教育を施す余裕が出来る。
- 6) 学校行事などをうまくすり抜ける「ずるい奴」が得をするという不公平感がなくなる。
- 7) 生徒どうしの相互カウンセリングの時間的、心理的余裕が出来る。
- 8) 宿泊学習などに時間を割ける。
- 9) 生徒どうしのつき合いを通して相互に人格の陶冶が出来るようになる。

体育：

- 1) 夜遅くまでものを覚える不健康な生活から解放され、健全な生活が確保出来る。
- 2) スポ－ツに費やす時間が確保出来る。

- ・高校でセンタ - 試験レベルの教育を行えば良いので，受験技術の教育より本来の教育が出来る。例えば読書，理科実験などに時間を注げる。即ち，そういう教育を受けた人材を確保出来る。
- ・受験でつかれ切った人間ではない生徒を確保出来る。
- ・人間的に成長した学生が期待出来る。
- ・面接のみの場合に比べ，推薦では，高校のメンツもあり，優れた人材を紹介してくれるだろう。

案2 センタ - 試験で一定の得点以上を取得したものについて2次審査を行う。2次審査は，大学が用意する評価票（例2）の回答 + 内申書 + 推薦書 + 面接の総合評価による。

案1との違いは，いわゆる高校推薦制でないと，センタ - 試験の成績が2次審査の受験資格取得のみに使われ，最終評価に加味されないところにある。

- ・センタ - 試験で一定の点数に達したものについては，高校レベルの学力を十分にマスタ - しているものと評価し，それ以上の得点に関しては優劣を問わない。
- ・内申書に現れる学力評価に関してはこれを評点化し，総合評価の一部として取り扱う。この場合，学校格差は無視して，評価の補正は行わない。大学側のこのような態度は学校間の格差是正につながると思われる。
- ・評価票の回答，面接，推薦書により人物評価と適性の評価を行う。推薦者は高校の教員以外でも可。本人をよく知る人物からの推薦を求め

る。

メリット

案1のメリットのほとんどが確保出来る。その他，内申書重視で学校間格差の補正を行わないことから，いわゆる受験校ではない高校の出身者が有利になる可能性もある。センタ - 試験で一定のレベルに達しているのであれば，この格差を問題としないという大学側の姿勢が，一部の高校が受験技術修得と知育偏重の教育を行う予備校と化している現実を是正するために役立つ。

入学選抜方法の改善は現行の選抜方法の問題点を把握した上で検討しなければならないのは当然である。今回の検討は，獣医学部という一学部の教官のみを対象に行ったものであり，不十分であるといえるだろう。大学の教官のみならず，高校教師，PTA，生徒の意見も聴取し，最終的には，社会にどのような人間が期待されているかを把握しつつ，各大学それぞれの理念に基づく教育を施すための選抜方法が検討されるべきである。本学は開学以来，全人教育を教育理念としているが，本学が現在の入試制度のような，学校教育における全人教育をないがしろにした入学者選抜方法をとることは著しい自己矛盾である。我が国有数の基幹総合大学である北大が，建学の精神に立ちもどって，学校教育における全人教育重視の入学者選抜方式を模索し，率先してそれを行うことは学校教育に好ましいインパクトを与えるに違いない。大学入試の学校教育に対するネガティブインパクトは大学の責任において大学がこれを是正しなければならない。教育改革の機運を機に，選抜方法の抜本的改革に向けて検討が必要であると思う。

付録1：アンケート

（1）以下の学力及び人間性に関する項目の全てが評価可能であると仮定したとき、獣医学部に受け入れる学生の選抜にどの評価が最も必要であると考えますか。重要と思われる項目を10個選び、番号に○をつけ、重要と思われる順に順位を示してください。

番号	評価項目	順位	番号	評価項目	順位
1	記憶力		18	献身性	
2	思考の深さ		19	行動力・活力・積極性	
3	創造性・独創性		20	明朗性	
4	理解力		21	企画力	
5	発表力・表現力		22	決断力	
6	論理性		23	判断の適切性	
7	応用力		24	逆境に強い（うたれ強さ）	
8	想像力		25	建設的思考の持主か	
9	意欲・探求心		26	友好度	
10	努力家度・勤勉性		27	自身の人間性陶冶に積極的か	
11	集中力		28	不快な感情を抑制・自制心	
12	立案力		29	独立心	
13	抽象概念を具体的事象に置き換え（て理解する）能力		30	包容力	
14	個別事象を普遍化する能力（実験などで得られた観察事項を、より一般的な現象を説明出来るように普遍化する能力）		31	素直さ	
			32	責任感	
			33	誠実さ	
			34	謙虚さ	
15	思いやり・気配り・親切心		35	礼儀正しさ	
16	協調性		36	その他（具体的に）	
17	指導力				

（2）現行の大学入学試験（センター試験、大学独自の学科目の試験）で、以下のような生徒の学力特性がどの程度評価出来ますか。番号で答えてください。

- （1）全く評価出来ない （2）あまり評価出来ない （3）どちらとも言えない
（4）ある程度評価出来る （5）非常によく評価出来る

番号	評価項目	センター試験	大学・学部 の入学試験
1	記憶力		
2	思考の深さ		
3	創造性・独創性		
4	理解力		
5	発表力・表現力		
6	論理性		
7	応用力		
8	想像力		
9	意欲・探求心		
10	努力家度・勤勉性		
11	集中力		
12	立案力		
13	抽象概念を具体的事象に置き換え（て理解する）能力		
14	個別事象を普遍化する能力（実験などで得られた観察事項を、より一般的な現象を説明出来るように普遍化する能力）		

付録2：学生推薦に伴う評価表の例

生徒氏名	高等学校名	
	立	高等学校
推薦者氏名・印	官職	生徒との関係
印		

お尋ね：表記生徒の学力・人物像についての評価を、該当する欄に○印でお答えください。特に強調したい特性については、◎で回答してください。なお、本調査は面接試験の際、評価の妥当性を確認し、参考にしますので、厳正中立の立場で回答してください。

	評定項目	非常に ある	ある	どちら とも言 えない	あまり ない	全くな い		評定項目	非常に ある	ある	どちら とも言 えない	あまり ない	全くな い
1	思考力						11	行動力					
2	意欲						12	協調性					
3	創造性						13	誠実さ					
4	発表力						14	思いやり					
5	理解力						15	指導力					
6	論理性						16	明朗性					
7	応用力						17	決断力					
8	立案力						18	責任感					
9	集中力						19	勤勉性					
10	空想力						20	礼儀					

生徒の学科目以外での活動状況についてお尋ねします。該当欄に○印あるいは記入して回答してください。

活動内容	参加経験		名称／内容	役職名	活動態度			
	あり	なし			非常に 熱心	熱心	どちら とも言 えない	あまり 熱心で はない
部活動			部					
生徒会活動								
クラス行事								
ボランティア活動								

その他この生徒に特筆すべき事項：